

令和3年度 保育園(3園)・子どもの家 事業計画

1. 事業計画の概要

中長期計画のビジョンとして「育ち合うクラスづくり」～乳児期から幼児期に向けての途切れない保育へ～を掲げ、地域との関りを持たないで過ごす家庭の増加とともに情報過多による不安定な保護者、配慮を要する子どもが増加傾向にある中、家庭支援、地域支援の必要性が保育園に求められている。個々の家庭環境、親の価値観によって適する対応が違うこと、子どもへの柔軟な保育が当たり前であることを意識し、乳児期に必要な基本的信頼感・非認知能力に関しても幼児期を見据えたものと位置づけ、情緒が安定した中子どもが過ごせるように配慮する。幼児期では「10の姿」を育てられるような保育の向上を目指す。

中長期計画 2年目はコロナ禍でいかに保育の中身を充実できるか子育て支援事業や子どもの家も含め利用の在り方、各園の経営の安定と組織強化を図る。

2. 財務の視点

経営の安定

- ・全園利用定員を満たし経営の安定を図る。(期間限定保育・面積基準緩和等)
- ・人材確保とゆとりを持った職員配置により保育士の負担を軽減し、働きやすい職場づくりを目指す。
- ・一時預かり事業(単体事業では継続困難)を令和3年度で一旦休止し、るり保育園の経営安定と法令遵守の為、ポピー(0歳～2歳)クラスの開設を視野に(場所、人材等)協議する。
- ・子どもの家は登録児童増員を目指し各種PR活動を行う。

3. 顧客の視点

①保育の質の向上

- ・乳児期と幼児期に沿った年齢ごとの目指す姿を保育計画作成。
→途切れない保育にする為に職員同士の価値観・情報共有を密に行う。
- ・配慮を要する子どもの増加に対して、家庭背景を含め個々に応じた対応が出来るように保護者や連携機関との連携を大切にし、情報を周知する。
- ・食育の更なる充実。
- ・るり保育園の修繕・保育環境を整える。
- ・子どもの家の利用料ルール決めと見直し検討。

②地域貢献

- ・コロナで家庭訪問ができない為、代替え案としてリモートで懇談会を行うなど検討する。
- ・保護者が集える場所の提供を行う。
- ・乳児院と乳児保育園・るり保育園(子育て支援)で乳幼児総合支援事業(こんにちは赤ちゃん支援センター)の展開を目指す。
- ・BP1ファシリテーター養成講座の受講2名
- ・子育て支援事業講座の充実と地域子育てサロンをサポートする

③行政・関係機関との連携

- ・住吉区保健福祉センター保健師、子育て相談室、保育担当との連携
- ・大阪市子ども青少年局巡回指導員やエルム大阪、子ども相談センター等の助言を基に保護者と共に子どもの成長を考える。(保護者承諾)
- ・療育機関と連携する。(保護者承諾)

- ・小学校と連携。(荻田北小と接続カリキュラムを確立)
- ・私保連・住吉区子育て連絡協議会の主催する情報交換会に参加する。
- ・住吉学童保育連絡協議会へ加入し情報収集及び意見交換を図る。

4. 内部統制の視点

①3園一体的な保育園を目指し各園の基盤づくり

- ・るり保育園の体制強化及び3園の情報共有と協働体制・会議の在り方等

②3園のプロモーション

- ・ニーズに合わせたHPを作る。
- ・子どもの家の情報公開と情報提供HP・チラシ・地域行事の参加。
- ・保育園独自のユニフォーム(Tシャツ等)を作り園内外、地域行事に参加。
- ・未就園児・保護者に定期的な開放日を設定。

③業務の効率化

- ・PC事務作業のできる環境づくり。書類作成時間・ノンコンタクトタイムの確保。

5. 学習と成長の視点

①保育士の人材確保

- ・実習生、インターンシップ、学生バイトを奨励し学生・学校との繋がりを強化する。
- ・コロナ禍におけるリモートによる採用手段の更なる充実
- ・新任職員の定着に向け研修体制の確立。
- ・無資格者採用ルート of 確立と活用(加配・加算の活用・子育て支援員受講等)
- ・大阪市保育士確保政策の活用により他府県からの保育士採用を強める。
(宿舎借り上げ事業・新規採用特別給付・ウエルカム事業等)

6. その他修繕購入等

・るり保育園改修工事(トイレ・床・3階含む)	3,500,000円
・るり2乳児保育園設備工事(仕切り工事・エアコン)	1,500,000円
・乳児保育園(園庭遊具・玩具・食器など)	3,000,000円
・ユニフォーム製作費(300,000×3園)	900,000円